

2023

12月

ゆ う ひ ろ ば

遊通信
第 189 号



パレスチナに平和を！キャンドルデモ（2023年11月3日）

特集 パレスチナ、西サハラ

まず停戦を！ そして違法な占領・封鎖の終結を！	… … 2
イスラエルの「ガザ壊滅作戦」を許してはいけない	… … 4
私たちの無関心が事態の悪化を招いた	… … 6
パレスチナ闘連年表	… … 7
西サハラ問題とは何か？そして日本の関わりは？	… … 8
難民キャンプで願う祖国の平和と自由—ファトマさん札幌講演会の報告	… … 10
 寄稿 オリパラ住民投票活動顛末記	… … 12
寄稿 与那国・石垣・宮古・沖縄島をめぐり考える。	… … 14
リレーエッセイ 私と、さっぽろ自由学校「遊」（第8回）	… … 15
連載 タントアナクネピリカ（第8回）	… … 16
連載 フィールドワークな日々（第95回）	… … 17
さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ など	… … 18

追放を狙った生活破壊

イスラエルはガザ北部を徹底的に破壊し、
が駐留しているかどうかは関係ありません。現に国連も「オキュパイド・テリトリーズ」と呼んでいます。厳しく封鎖されたガザの状況は、「占領下にある」と考えないと説明がつきません。そして、10月7日のハマースによる攻撃後、イスラエルが最初にやったのは完全にライフラインを止めること。空爆に加え、食料も水も手に入りにくくなる。明確な国際法違反です。

イスラエルは今回の攻撃を自衛権の行使だと説明し、西欧諸国もそれを認めていますが、自衛権とは、伝統的に国と国との間に適用されてきた考え方です。2001年のアフガニスタン戦争で米国がアルカイダに対して自衛権行使を主張して以降、非国家主体に対する国家の自衛権行使を認める研究者も出てきていますが、私は認めてはいけないと考えていました。もちろんハマースのやつたことは容認できませんが、国家対非国家というのは極めて非対称な関係で、しかも占領者の力が圧倒的な被占領地で占領者の自衛権を認めてしまつたら、無茶苦茶になりかねない。それが今、現にガザで起きているのです。

イスラエルはガザ北部を徹底的に破壊し、
が駐留しているかどうかは関係ありません。現に国連も「オキュパイド・テリトリーズ」と呼んでいます。厳しく封鎖されたガザの状況は、「占領下にある」と考えないと説明がつきません。そして、10月7日のハマースによる攻撃後、イスラエルが最初にやったのは完全にライフラインを止めること。空爆に加え、食料も水も手に入りにくくなる。明確な国際法違反です。

イスラエルは今回の攻撃を自衛権の行使だと説明し、西欧諸国もそれを認めていますが、自衛権とは、伝統的に国と国との間に適用されてきた考え方です。2001年のアフガニスタン戦争で米国がアルカイダに対して自衛権行使を主張して以降、非国家主体に対する国家の自衛権行使を認める研究者も出てきていますが、私は認めてはいけないと考えていました。もちろんハマースのやつたことは容認できませんが、国家対非国家というのは極めて非対称な関係で、しかも占領者の力が圧倒的な被占領地で占領者の自衛権を認めてしまつたら、無茶苦茶になりかねない。それが今、現にガザで起きているのです。

清未愛砂さん
(2023年11月28日、自治労会館)

イスラエルはガザ北部を徹底的に破壊し、
が駐留しているかどうかは関係ありません。現に国連も「オキュパイド・テリトリーズ」と呼んでいます。厳しく封鎖されたガザの状況は、「占領下にある」と考えないと説明がつきません。そして、10月7日のハマースによる攻撃後、イスラエルが最初にやったのは完全にライフラインを止めること。空爆に加え、食料も水も手に入りにくくなる。明確な国際法違反です。

イスラエルは今回の攻撃を自衛権の行使だと説明し、西欧諸国もそれを認めていますが、自衛権とは、伝統的に国と国との間に適用されてきた考え方です。2001年のアフガニスタン戦争で米国がアルカイダに対して自衛権行使を主張して以降、非国家主体に対する国家の自衛権行使を認める研究者も出てきていますが、私は認めてはいけないと考えていました。もちろんハマースのやつたことは容認できませんが、国家対非国家というのは極めて非対称な関係で、しかも占領者の力が圧倒的な被占領地で占領者の自衛権を認めてしまつたら、無茶苦茶になりかねない。それが今、現にガザで起きているのです。

特集 パレスチナ、西サハラ

イスラム組織「ハマス」による越境攻撃をきっかけにしたイスラエル軍によるガザ地区への報復攻撃が続いている。自国の安全保障のためには市民の巻き添えもいとわない姿勢に国際社会の批判が高まっているにもかかわらず惨劇が続く、まさに異常事態です。日本人としてどう考え、解決に向かって行動していくべきか。植民地主義や自決権など共通の課題を抱える「西サハラ」の独立問題も合わせて、考えます。

北海道自治労会館で11月28日（火）に行われた、日本の重拠をめぐる講演会の中で、パレスチナと深くかかわって来た室蘭工業大学の清末愛砂教授（憲法学）が、国際法に照らしながらガザの情勢を考える特別報告を行いました。了解を得て内容を紹介します。



ガザの現状を考える時に忘れてならないのは、ガザがこれまで16年間もイスラエルによって占領され、封鎖されており、問題の始まりはハマースがイスラエルを越境攻撃した10月7日ではない、ということです。

ガザは今占領下にある

ガザは東エルサレム、ヨルダン川西岸とともに1967年の第3次中東戦争でイスラエルに占領されました。人口は現在約230万人。70%がイスラエル建国の過程で故郷を追い出された難民です。イスラエルは2005年にガザから軍隊と入植者を撤退させました。これにより、あたかもガザは自らの占領下にはいかのように振る舞っています。国

際的な批判を避けるとともに、占領地に対して国際法で求められる文民の保護という責任を免れるためのイスラエルの強弁です。そもそも、イスラエルは從来から「ヨルダン川西岸地区やガザを占領していない、これらの地域は最終的帰属が決まっていない係争地である」と主張してきましたが、そのような言い訳は国際的に通用しません。

撤退の翌年、立法評議会選挙でパレスチナ人はハマースを選びました。それまでのパレスチナ解放運動の主力だったファタハに汚職の問題などがある、そこへの批判もありました。その民意を否定したのが、民主主義を標榜して来た西欧諸国です。イスラエルと一緒にファタハに肩入れして武器などを供与し、ハマースとの内戦を起こさせ、翌07年からガザの封鎖が始まったのです。イスラエルが、人の動きに加え物流、水や電気、ガスなどのライフラインまでも押さえています。人びとは極めて苦しい生活を強いられ、ガザは「天井のない監獄」と呼ばれるようになりました。

国際法上の「占領」とは、事実上、敵軍の権力の範囲内にあることであり、内部に軍隊

特集

イスラエルの「ガザ壊滅作戦」を許してはいけない

猫塚義夫

2023年12月

ゆうひろば 第189号

2023年12月

ゆうひろば 第189号

こうした事態は、10月7日に偶然発生したわけではありません。2005年に始まり07年に完成したガザを取り囲む分離壁やフェンスにより、これまで16年にわたるガザの「完全封鎖」が続けられてきました。16～18歳以下の人々は、まさに「封鎖しか知らない子どもたち」となっています。ガザの若者たちにとって、未来への希望が見えないどころか将来の夢が全く描くことができなくなっているのです。

その中でのガザの実情は、筆舌にあらわすには過酷すぎるのです。経済は疲弊し失業率は平均50%、28歳以下の若者に限れば実に70%超までに至っています。多くの若者が大学で学んで、その後研究を続けたり社会に出て働くという希望を語ることができません。

医系学生も同じで、医師・看護師の資格を取つても経済的な疲弊で彼らを雇用する病院はほとんどありません。彼らは無償で病院に勤めて、労働した「証明書」を獲得したり、自らの技術を高める努力を続けています。私たちは、ガザ地区・イスラミック大学看護学部と札幌市立大学看護学部との交換留学について準備を始めるところでした。



いつ封鎖が解除されることも知らず、ガザで生きる若者にとって未来への展望や希望が絶たれ、悲観した若者の自殺の増加も報告されています。また、燃料の枯渇は、ただちに電力不足に繋がります。1日の通電は4時間で夜は漆黒の闇の中での生活です。また、ガザ地区にあった産業の発展を阻害してきたのです。

污水处理が不可能となり、トイレや生活排水はそのままの状態で土地に浸み込み海に流れます。ガザの大地と豊かだった海も汚染されそこで採取する農産物や魚介類を摂取せざるを得なくなっています。こうした環境下で生まれてくる子供に、心臓疾患、知能障害、形成異常など3つの疾患が増加していることがシファ病院の幹部医師から語られています。

ガザ地区の沖には、イスラエル海軍が封鎖しており近づくと銃撃されています。ガザ地区では現地の報道機関が事態を毎週報告しています。封鎖前であれば、ガザの漁業は、ガザ港からレバノンやエジプトの沖まで行って豊かな海の恵みを得ることができたのです。現在、ガザの漁村は最も貧困に喘ぐ地域となっています。路上で、子どもたちが裸足でサッカーに興じるところでした。

2023年10月7日、「イスラム組織ハマス（イスラム抵抗運動）」がガザを封鎖している分離壁やフェンスを壊してイスラエル領内に侵入し、イスラエル人1200名の殺害と200名以上の人質をとらえたことに直接的に端を発した今回のガザ軍事衝突は、すでに2ヶ月を過ぎました。

イスラエルからの軍事攻撃は、欧米5か国が主張した「自衛権」などをとつくるに超えた、史上最大のガザへの「ジェノサイド的」軍事攻撃となっています。（占領国家のイスラエルが「自衛権」を主張することは不当なことです）

イスラエルの被害は1400名とはいえる、パレスチナ側では12月9日時点で死者1万7400名、うち子どもが6000名を超え、実に70%以上が婦女子で占められています。また、ガザには当時、臨月を迎えている5500名を含む妊婦さん5万名がいたと言われています。

イスラエルは、ガザ北部への掃討を進める理由で、住む人々に南部への「避難」を呼びかけ、集団移住を強行しています。これ自体重大项目ですが、たとえ南部に「避難」しても、イスラエル軍はガザからの虐殺の犠牲になってしましました。まさに、シャファ病院へ軍事侵入を図りました。院内には650名の患者さんと共に2500名の医療従事者・避難民がいるにもかかわらずの蛮行でした。ここでは、生まれてきた新生児65名中45名が死亡させられてしまいました。まさに、赤ちゃんまでもがイスラエルからの虐殺の犠牲になっています。

これまでガザへの軍事侵攻は、2008～09年、12年、14年、21年と繰り返され、犠牲者が2300名にのぼったこともあります。それさえ受け入れがたい悲劇なのに、今回は、既に1万名を超える死者数を数える、桁違いの軍事攻撃なのです。イスラエルはガザ侵攻を「定期的な芝刈り」と言つてきました、しかし、今は芝を根っこから掘り崩すという徹底的な「ガザ壊滅作戦」というべきものです。

10月7日のハマスによる越境攻撃は、批判されています。これまでの延長線上では、因り切れず徹底した軍事作戦であり、ジェノサイド（集団虐殺）となりつつあるのです。

たとしても、そこにはイスラエルによる陸海空からの攻撃が待っているのです。そこには、すでに190万名の人々が避難し難民キャンプや野宿を強いられているのが実態なのです。さらに11月14日には、ハマスの司令部の存在を口実に、イスラエル軍はガザ最大の病院であるシャファ病院へ軍事侵入を図りました。院内には650名の患者さんと共に2500名の医療従事者・避難民がいるにもかかわらずの蛮行でした。ここでは、生まれてきた新生児65名中45名が死亡させられてしまいました。まさに、赤ちゃんまでもがイスラエルからの虐殺の犠牲になっています。

たとしても、そこにはイスラエルによる陸海空からの攻撃が待っているのです。そこには、すでに190万名の人々が避難し難民キャンプや野宿を強いられているのが実態なのです。そこで、ファシスト政権下で活躍したレジスタンス・パルチザンと同様に正当な権利なのです。今回それを口実にしたイスラエルの軍事侵攻は、一般市民、子ども・老人・女性など弱者を無慈悲に虐殺する行為は、まさに不当な「集団懲罰」であり「集団虐殺」であります。国連からも指摘されています。その時には、キャンプ内の診療所の庭に催涙弾が飛んでくることもありました。しかし、今回ガザでは、病院そのものを攻撃しています。これまでの延長線上では、因り切れず徹底した軍事作戦であり、ジェノサイド（集団虐殺）となりつつあるのです。

ヨルダン川西岸での難民キャンプで、イスラエルがパレスチナ人を「不当逮捕」するため1万名を超える兵士を進軍させ、キャンプ全体を威圧し攻撃する場面に出会ったことがあります。その時には、キャンプ内の診療所の庭に催涙弾が飛んでくることもありました。しかし、今回ガザでは、病院そのものを攻撃しています。これまでの延長線上では、因り切れず徹底した軍事作戦であり、ジェノサイド（集団虐殺）となりつつあるのです。

猫塚義夫（ねこづかよしお）
整形外科医、パレスチナ医療奉仕団団長。車いすを海外に届ける活動をきっかけに中東の紛争地支援に携わり、これまでに14回の現地支援を重ねてきた。

特集

私たちの無関心が事態の悪化を招いた

小内ゆい

私は北海道パレスチナ医療奉仕団のメンバーの一人として、10月29日から11月4日までの7日間、ヨルダン川西岸地区や難民キャンプを中心に医療支援に入る予定でした。北海道パレスチナ医療奉仕団の活動を知るきっかけとなったのは、2018年11月に医学生向けに開催された猫塚先生による講演会でした。当時医学生だった私は、初めてパレスチナの、ガザの実情を知り、自分の日常とあまりの違いに衝撃を受けました。その時は自分に何かができるとは思えず、これほどまでに残虐なことを人間ができるという事実を感じたありませんでした。それでも学ぶことをやめてはいけないと思い、奉仕団主催で行われた清末愛砂先生による中東における女性の人権問題に関する講演会に参加しました。

女性の人権問題について学んでいくと、たとえば遠い国の問題であったとしても、本質的には日本におけるあらゆる人権問題と共通するのではないか、自分も当事者の一人として考えなければならない、と思うようになります。

奉仕団には理学療法士として働くメンバーもいるため、整形疾患を抱えるパレスチナの人びとへのリハビリテーションや、負傷した際の適切な処置の方法を分かりやすいパンフレットにするなど、自分たちにできることを考えています。医療はそうした人々の生活や精神的な基盤があつて初めて成り立つものだからです。そのため今できることを積み重ねてきました。

また、現地に入ることができるようになった時、大切な人が目の前で亡くなつていった、残されたガザの、パレスチナの人々の生活と心に寄り添うことから始めたないと考えています。医療はそうした人々の生活や精神的な基盤があつて初めて成り立つものだからです。奉仕団のメンバーの声を届ける機会を作ることになりました。

した。清末先生に「日本にいる自分に何ができますか?」という質問をした際、「医師になつたらぜひ奉仕団に入つて一緒に支援に行きましょう」と言つていただきた言葉が忘れられず、医師として働き始めて2年目の今年8月、奉仕団に入団しました。そして同じ病院の整形外科病棟で働く看護師の武田美優さんには誘われ、10月に一緒に医療支援に入るようになりました。

奉仕団には理学療法士として働くメンバーもいるため、整形疾患を抱えるパレスチナの人びとへのリハビリテーションや、負傷した際の適切な処置の方法を分かりやすいパンフレットにするなど、自分たちにできることを考えています。医療はそうした人々の生活や精神的な基盤があつて初めて成り立つものだからです。そのため今できることを積み重ねてきました。

このように事態になるまでパレスチナの抱える問題を放置してきた国際社会、日本、そこには所属し、活動している。

小内ゆい（おないゆい）
札幌市内の病院で働く初期研修医。2023年8月に北海道パレスチナ医療奉仕団に入団。軍拠NO！女たちの会・北海道や反核医師の会に所属し、活動している。

悲劇は欧洲の過ちから生まれた

パレスチナ問題をめぐる動きを見ると、パレスチナでのユダヤ人国家樹立を目指すシオニズムが、欧洲の反ユダヤ主義によって生み出され、帝国主義がそれを育て、ファシズムが拍車をかけるという構造が浮き彫りになる。そして、その欧洲諸国の不正義の代償を今、何の責任もないパレスチナ人が払わされている。

ユダヤ人が「ローマ帝国に奪わたものを取り戻す」とパレスチナ人の土地を奪うことは正当なのか。ホロコーストの被害者だからといって、抵抗するパレスチナ人を過剰に抑圧するナチスの再来のような振る舞いは許容できるのか。しかし現実には、戦後に発足し、人民の同権および自決の原則をうたつたはずの国連も、パレスチナ人を犠牲にする対応策しか提示できなかつた。

イスラエル建国から4分の3世紀。抑圧と抵抗の連鎖で相互の憎悪は年ごとに深まり、解決は困難さを増していくばかりだ。しかし、日本を含む旧帝国主義諸国の遺した負債は、パレスチナ問題に限らず、今も世界各地で紛争の火種となつており、この克服を抜きに真の平和は実現できない。まずは焦眉の急であるパレスチナ問題について、国际社会の知恵と行動が求められている。（文章、年表とも飯島秀明）

＜パレスチナ関連年表＞

1~2世紀	ローマ帝国がユダヤ人をパレスチナから追放（離散=ディアスポラ）
7世紀以降	アラビア半島からアラブ人が北上し、パレスチナに定住
中世	欧洲キリスト教社会でユダヤ人への迫害が始まる（11世紀以降に本格化）
16世紀以降	オスマントルコ帝国がパレスチナを獲得。イスラム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒が共存
19世紀	欧洲で新たな反ユダヤ主義。ロシア・東欧などで激しいポグロム（集団虐殺）が発生
1897年	スイスで第1回シオニスト会議開催、パレスチナにユダヤ人国家の建設を目指す綱領を採択
1914年	第1次世界大戦勃発（～18年）
15年	英国がオスマン帝国支配下のアラブ人に独立を約束し反乱を促すフセイン・マクマホン書簡
16年	英仏が大戦終結後のオスマン帝国の領土分割について密約（サイクス・ピコ協定）
17年	英国がパレスチナにおけるユダヤ人の「民族的郷土」建設を支持（バルフォア宣言）
22年	パレスチナ、英國の委任統治領に
39年	第2次世界大戦開戦（～45年） ナチスドイツがユダヤ人約600万人を虐殺（ホロコースト）
47年	国連総会でパレスチナ分割決議。人口が30%程度のユダヤ人に、大半の農業適地を含む50%超を与える内容
48年	イスラエル建国、第1次中東戦争が勃発（イスラエルが周辺アラブ諸国に勝利し、パレスチナの約80%を支配）、70万～80万人と言われるパレスチナ難民が発生
56年	第2次中東戦争（スエズ戦争）
67年	第3次中東戦争 イスラエルがガザ、ヨルダン川西岸、東エルサレムを占領
73年	第4次中東戦争
93年	オスロ合意（米国の仲介でイスラエルとPLOが相互承認、一部地域でのパレスチナ人自治の開始、その他の問題は先送り）
95年	オスロ合意の当事者であるラビン・イスラエル首相をユダヤ人の合意反対派が暗殺、和平が停滞
2006年	パレスチナ立法評議会選挙で、ハマスが勝利。その後、イスラエルがガザを封鎖を強化
08年	イスラエルがガザに侵攻（その後も数次にわたり大規模攻撃）
23年10月	ハマスがイスラエルを越境攻撃、イスラエルは報復としてガザに侵攻、大量殺人と生活基盤の徹底的な破壊を開始

飯島秀明（いいじま ひであき）
元新聞記者。「遊」、平取「アイヌ遺骨」を考える会、沖縄の基地を考える会・札幌の各会員

特集

西サハラ問題とは何か？そして日本の関わりは？

松野明久

西サハラ問題とは？

一言でいえば、西サハラという旧スペイン植民地の独立が頓挫している、いや、頓挫させられているという問題だ。キーワードは非自治地域、非植民地化、自決権の三つだ。

非自治地域とは旧植民地を指す。国連憲章七三条に規定があり、当該住民の政治的願望が考慮され、自由な政治制度の発達が支援されなければならない。現在非自治地域は一七地域ある。

非植民地化は、文字通り植民地を終わらせる事であり、独立、海外州、自由連合といった選択肢がある。一九六〇年の国連総会決議一五二四(XV)、通称「植民地独立付与宣言」は植民地人民への無条件の主権委譲、非植民地化の促進を求めた。

自決権はこの「宣言」に明示されており、すべての人民がもつ、自由にその地位と体制を決定する権利をいう。西サハラ人民の自決権は一九六五年の国連総会決議二二二九(XXXI)で確認された。ところが、国連決議によって認められた西サ

ハラ人民の自決権は、モロッコの軍事侵攻と占領によって今なお行使されていない。すでに四八年、西サハラの人びと（サハラーウィ）は占領下で弾圧、暴力、差別に苦しみ、難民キャンプで祖国帰還の日を待ちつつ、厳しい暮らしに耐えている。

巨大な力に踏み潰される？
この紛争が解決されない理由は国際政治にある。そこに日本も関係する。米国、フランスがモロッコの後ろ盾となり、欧州諸国、日本などが事態を黙認している。それがモロッコを強気にさせている。

それほどモロッコは重要な国なのか。
まず、米国はジブラルタル海峡を臨むモロッコを戦略上重視する。対テロ戦争でもモロッコ室はパートナーだ。強権的な王政はイスラーム勢力を抑えてくれる。親イスラエルでもある。

フランスは仏語圏アフリカの要としてのモロッコを重視する。仏企業の進出先、仏製品の市場でもある。フランス語を使う多数の教育機



松野さん（左）とファトマさん
関を通じ、フランスの文化的ヘゲ
モニーが確立している。
他の欧州諸国もこぞってモロッ
コにすりよる。欧州向け野菜果物
を大量生産するアグリビジネス、
豊かな漁場から揚がる水産物及び
東ティモール連帯運動、インドネシア民主化支
援にかかる。一〇一七年西サハラ訪問。大阪
大学名誉教授。



日本の関わりは？

日本はモロッコの西サハラ併合を認めていない。しかし、実際にはモロッコ寄りだ。

日本はモロッコ国営会社が西サハラで違法に採掘するリン鉱石を輸入し、西サハラの海でと雷を埋め、往来を不可能にした。資源豊かな占領地を「防衛する」ためだ。

モロッコは、モロッコ人の移住を税を優遇して奨励している。モロッコ人が経済を支配し、サハラーウィは周縁化されている。警察が住民を監視し、サハラーウィは疑われ、就職や進学で差別され、ひどい場合は逮捕・拷問され、投獄される。平和的な主張も許されない。

サハラーウィの鬱い

難民キャンプを拠点とする独立派組織ポリサラオ戦線は一九七六年にサハラ・アラブ民主共和国の樹立を宣言し、民族解放軍を率いて、モロッコ軍と対峙している。しかし、軍事的に勝つのは難しい。モロッコはかつて米国の軍事支援を受けて戦況を有利にした。今でも米、仏、イスラエル、中国などから武器を買っている。

占領地西サハラでは非暴力の抵抗運動が続く。ライト・ライブリフッド賞(二〇一九年)を受賞したアミーナートウ・ハイダル氏、国際的反戦団体から賞をもらったスルターナ・ハイヤ氏、フランスの反拷問団体から賞をもらつたナアマ・アースファーリー氏がいる。ハイヤ氏はスペインに亡命し、アースファーリー氏は三十年の刑で獄中にいる。しかし、彼らの不屈の鬱いは終わらない。

松野明久（まつのあきひさ）
西サハラ友の会事務局長。一九八〇年代から
東ティモール連帯運動、インドネシア民主化支
援にかかる。一〇一七年西サハラ訪問。大阪
大学名誉教授。



ファトマさん札幌講演会（2023年11月10日、札幌エルプラザ）

独立と自決権への願い

私たち（の祖先）はもともと難民キャンプより良い、美しく豊かな資源のある場所に暮らしていました。しかし、キャンプの子供たちは魚や樹木などに接することができません。それを見るのはただアニメのなかだけで

四庫全書

在は、文化継承に関する取り組みも行っています。また、2020年に停戦合意が破棄される前までは、「壁に向かって叫ぶ」運動も行つておもした。これは西サハラの土地を東西に一分ずつ「砂の壁」の付近に行き、この壁が恥ずべき存在であり、基本的人権に対する犯罪であることを叫ぶ非暴力平和運動です（この模様はシキュメンタリー「Life is Waiting」<https://www.youtube.com/watch?v=9QzRzm4uFxU>）

難民キャンプでの活動

難民キャンプの活動

学生時代、当時は医者を目指していましたが、「西サハラ問題やサハラーウィの存在について報じるジャーナリストは多くない」という難民キャンプに十分な支援物資が提供できなくなっています。難民キャンプには、いくつかの診療所がありますが、そこにある医療器具は基本的なものに限られているため若くして亡くなる人も少なくありません。

ゆうひろば 第189号

私たちにとつてなじみのない西サハラ。この秋、ここ札幌でも、西サハラ問題の理解を深めるため、「西サハラ全国スピーキングツアーアー2023」の講演会を、複数の市民組織や個人有志の協力のもとで開催しました。講演会でお話しいただいたのは、アルジェリアにあるサハラーウィの難民キャンプに生まれ育ったファトマ・ブラヒームさん。現在は、開発NGOに勤めながら、モロッコの支配に対する非暴力抵抗運動を続けている女性です。

11月9日（木）昼、ファトマさんと松野明久さん（西サハラ友の会事務局長）が新千歳空港に到着。その足でウポポイへ行き、博物館を見学。翌10日午後は、アイヌ民族の女性としてマイノリティ女性への差別の問題に取り組んでこられた多原良子さんと面談。「複合差別」の概念—例えばマイノリティの中の女性がさらに差別を受けるといった具合にいくつかの差別が絡み合ってことで被害が増幅されるという考え方—を知り、それこそまことに自分が苦しんできたものだという気づきを

難波キャンプとほどのよくな場所か

難民キャンプとはどのような場所か

1999年に難民キャンプで生まれました。小さい頃はインターネットもテレビもなく、私が知っている世界は砂漠の中にある難民キャンプだけでした。小さなころから「ここは難民キャンプであり、西サハラが自分たちの故郷だ」ということを親から教わってきましたけれど、小さかったのでそれがどういうことかよくわかりませんでした。7歳の時、スペインの市民団体と難民キャンプが連携して

休みだけです。手紙しか通信手段がなく、キヤンプにはポストがないので、手紙がきちんと届いたかどうかわかりません。家族が無事に暮らしているのかどうか確認できなかつたのが一番辛かつたです。

す。キャンプで生まれ、死ぬといふのは大変つらいことです。私たちは住民投票の約束の実現と、そのための市民社会や国の支援を待ち続けてきました。私たちがもとめているのはとてもシンプルで基本的な権利です。住民投票、一人一票、そしていかなる条件も付帯されない自決権です。そのことを日本の方々に知つていただきたいと思います。

笛岡正修

難民キャンプで願う祖国の平和と自由
——アトマさん札幌講演会の報佳

2023年12月

私たちにとつてなじみのない西サハラ。こ

得て、アイヌ女性への差別をなくす運動を頑張っています。

実施する二ヶ月間のホームステイプログラムに参加するためスペインを訪問しました。そのときに初めて樹木を見ました。見るものすべてが驚きの連続でした。7日間はまったく言葉が話せなかつたほどでした。

スペインから戻つて「なぜ自分たちはこのようなどころに暮らしているのか」と両親に尋ねました。7歳の子供にわかる言葉でいろいろと答えてくれたけれど、疑問は解消されませんでした。

10歳で小学校を卒業しました。その後は遠く離れた町に親元を離れて移り住み、中学校に通いました（キャンプには中学校がないため）。最初はアルジェリア語がわからず、とても苦労しました。4年間の在学中（中学は4年制）、親元に戻れたのは入学2年後の夏休みだけです。手紙しか通信手段がなく、キャンプにはポストが無いので、手紙がきちんと届いたかどうかわかりません。家族が無事に暮らしているのかどうか確認できなかつたのが一番辛かつたです。

難民キャンプの生活は、世界食糧計画など国際機関からの食糧支援によって成り立っています。支援されるのは、コメ、砂糖、小麦といった基本的なものに限られています。現在、世界中で難民が増え続けているなかド

マさんの話に耳を傾けました。参加の方々に記入をお願いした「メントシートには、「世界の良心を信じ、沈黙せず、連帯していきたい」、「今日聞いたことは周りの人々に伝えたい」といった応援の声が多く寄せられました。

ファトマさんの自らの経験に根差した平易な語りが、多くの学びをもたらしてくれました。西サハラと日本の「心理的距離」がぐっと近くなつた、とても意義深い会でした。

笛岡正俊 (たさおか まさとし)
北海道大学教員。専門は環境社会
和学会北海道・東北地区研究会代表。

笛田正修（チトカミ マサヒロ）
北海道大学教員。専門は環境社会学。日本平
和学会北海道・東北地区研究会代表。

9月30日には初めての街頭署名活動を大通り3丁目の路上で行いました。この時、威力を發揮したのは青とオレンジ2種類ののぼり旗です。これを交互に30本立てた光景はなかなか壯観で、注目を浴びました。以降、各区で街頭署名や戸別訪問のスケジュールを立てて実行するという活動に入ります。

活動がようやく軌道に乗り始めた10月5日、「札幌五輪2030年招致断念」との

成
果

- ① 市民自治の重要性を世論に訴え、メディアにも好意的に取り上げられるなど一定程度受け入れられた

② 市長・市議会の市民不在の姿勢に対しNOを突き付けた

が一度も市民の声を直接聞くことなく決められていく過程を黙つて見過ごすことが私にはどうしてもできませんでした。賛成でも反対でもいいから、自治基本条例に明記される住民投票で決着をつけるべきであり、そのことの重要性を世論に訴えたい、という想いが勝りました。そして、その考えに賛同してくださる多くの方に支えられ、運動は進んでいきました。

8月末から市内各団体で説明会を行い、請求代表者は最終的に130名に達しました。

9月27日に請求代表者証明書が交付され、いよいよ署名活動開始。期間は9月28日から2ヶ月間。当面必要な署名簿はかかる2・7の作業室で数日前から印刷し、手作業で丁合9月29日には請求代表者・受任者の手元に署名簿を届けることができました。

9月30日には初めての街頭署名活動を大通

後

- こうして、私たちの署名活動は心なからずも約1ヶ月で終了してしまったのですが、この活動によって得られた成果と課題について最後に触れておきます。

課題

- ① 実質3ヶ月という短期決戦だったため、組織作り・賛同団体の拡大・資金調達に苦労した
- ② デジタルデバイド・情報伝達の難しさを実感した
- ③ 政党との距離感が難しかった
- ④ 組織に属さない市民への浸透が不充分だった

終わりに

活動に参加してくださったすべての方に深く感謝申し上げます。

私が目指したことは、自治基本条例に書かれた市民自治の理念を絵に描いた餅ではなく実質的なものにすることです。目標は遙か彼方ですが、今後も市政の動きに注目し、時期を見て再び行動を起こす所存です。

課題

- 課題

 - ① 実質3ヶ月という短期決戦だったため、組織作り・賛同団体の拡大・資金調達に苦労した
 - ② デジタルデバイド・情報伝達の難しさを実感した
 - ③ 政党との距離感が難しかった
 - ④ 組織に属さない市民への浸透が不充分

ゆうひろば 第189号

活動の経緯

オリバラ住民投票活動顛末記

高橋 大輔

2023年7月9日、ジャーナリストの今井一氏が札幌で開催したセミナーに参加したこと。その1年以上前から私は札幌冬季オリンピック・パラリンピック（札幌オリパラ）招致反対運動に関わっており、「オリパラのような多額の資金を要し、市の将来の街づくりに大きな影響を及ぼす重大な問題は住民投票で決めるべきである」というのは当初からの持論でした。ただ、議員提案が否決され、請願・陳情がことごとく不採択・廃案となるのを見守るばかりで、自分で住民投票を求める運動を立ち上げるという「踏ん切り」がなかなかつかずにいたのです。この間、「何か行動しなければ」という思いが蓄積されていましたところに、セミナーで各地の住民投票の事例を語る今井氏の情熱が伝わり、自分の内面でスイッチが入ったように感じました。

今回の運動は地方自治法第74条に定められた条例制定直接請求制度を利用するものでした。署名集めには期限があることと、一〇〇

が2030年の開催地内定を出すのが早く、年内という情報があつたので、時間の余裕はありません。早速取り組んだのが仲間集めと情報収集です。7年前から一緒に活動している「さっぽろ勝手連」の〇氏と△氏は二つ返事で了承。市民の風・北海道のM-Lで参加を募ったところ、△氏ほか数名が真っ先に手を挙げてくれました。また、大阪一Rの住民投票運動に参加した方から、当時の署名簿・チラシ類を送っていただきました。

そして7月16日に第1回ミーティングが行われたのですが、この時点では全員が何もかも初めてで分からぬことだらけ。例えば署名期間は政令都市は2ヶ月なのに、1ヶ月と勘違いするなど、お世辞にも順風とはいえない不安だらけの船出だったのです。7月22日の第2回ミーティングでは政党関係者その他、「札幌市自治基本条例」の生みの親である神原勝先生も出席され、活発な議論が交わされるとともに、直接請求に向けて以下のようないかがわしい方針・意義が確認されました。

② 意向調査が秋に行われる可能性があり、その動きに合わせて署名活動をすることとで、市と議会を牽制する。

そして、秋元市長に対し、住民投票を実施する気があるのかどうかを公開質問状で問うことが決定されました。

8月2日、スポーツ局招致推進部で公開質問状を手渡しし、その後初めての記者会見を開きました。この時以来、私たちの運動は多くのメディアの注目を引くことになります。

8月8日に市長からの回答が届けられましたが、中身は予想通りそれまでの答弁を繰り返すだけの誠意のないものでした。お盆休みを挟んで、直接請求の活動を開始する旨の声明を出したのは8月16日でした。

この間、運動に対する否定的な意見や慎重論も周囲から聞かれました。「2030年も2034年も札幌は本命から外れているという情報もあるのに意味ないので?」、「〇〇からの内定が出でからでも遅くないので?」「あまりに拙速で組織も脆弱」・等々。しかしながら、オリパラのよつた重要な事項

①市民自治の重要性と制度不備を一般社会に向かってアピールし、招致推進活動を開いた市と議会に疑問を投げかけ世論喚起する。

②意向調査が秋に行われる可能性があり、

るジャンルでも知らなかつた本、なども紹介されるので、紹介内容を聞いているだけで、心に残したい言葉があつたり、知らない世界を覗いてみたりできおもしろく、ちょっとぴり知識が広まつたりもしました。

貸してくださいさつた本が思つた以上におもしろく、同じ作家の本をさらに読んでみるとなど、自分ひとりで読んでいたのではできない広がりもありました。

また、紹介する内容から話題がいろいろな方面へ広がって、気さくな雰囲気の中でそれぞれの方々の体験や考え方などを聞けることも樂しさのひとつです。

また、紹介する内容から話題がいろいろな方面へ広がって、気さくな雰囲気の中でそれぞれの方々の体験や考え方などを聞けることも樂しさのひとつです。

「再生可能エネルギー」の初めの講座では、单発で参加しただけで、それまで知らなかつた「超・低周波音」の問題や、住民間や市政と住民の問題など、体験者の具体的な声を聞くことができ、「環境問題」についてこれまでとは違う視点からも見ることができるよつになりました。

AR・VRの講座では、現在やこれからのインターネット事情について学んだり、実際にゴーグルをして遠隔地や仮想世界の中に自分を置く体験をしたりとワクワクする時間も多かったです。

その他の講座でも、たくさんの学びがありました。参加者の中には、その講座内容について広い知識を持った方々もいらっしゃって、方々のお話を聞けたのも良かったです。



リレー・エッセイ
私と、さつぼう自由学校「遊」

角花枝 かくはな かずえ

ゆうひろば 第189号

河緑は19歳まで生活をした場で、自分の思考原点になっている。

私にとって沖縄へ帰ることは、沖縄のにおい、失いそうになる沖縄の五感を取り戻すことであり、自分を見つめ直すことでもある。

今回、琉球弧に自衛隊基地がつくられ、遠くに住んでいる私には見えてこない自衛隊基地の状況を知りたいと思い、初めて沖縄関連のツアー「与那国・石垣・宮古（以下3島）自衛隊南西・沖縄シフトの現実と平和への道筋」に参加した。

出発前、地元琉球新報の記者による事前学習、3島ではそれぞれの土地で生活、平和活動をされてるガイドの説明、交流会の企画は個人旅では得られない、見えない貴重な内容であった。参加者それぞれの立ち位置で視点も異なるだろうが、私は沖縄人視点で報告をさせて頂きたい。

私自身は、沖縄地元紙に触れ、友人からの情報で台湾有事に備えた軍備拡張が進んでいくことへの危機感はある程度知っていると自負している。しかし、それは傍観者で無責任な傲慢な知識であつたことを認めてこの旅を振り返つてい

私たちの目に触れない形で少しづつ、侵食していくアメーバのように、気が付いたときは自衛隊基地に反撃能力ミサイル、弾薬庫の整備が進む、住民には後戻りできない既成事実が作られていく。住民の生活、公道に戦車、迷彩服の自衛隊が平然と入ってくる。基地ゲート前で銃を持った自衛官の警備、貴重な自然を破壊、基地が造られる住民無視はまさに沖縄島で起きている国家権力の横暴の構造と重なる。飴と鞭で県民を懲柔、分断させる手口で容認へもつて行き、その後、約束は反故にされていく。多くの日本人はそれを選んだ住民、「あなた」の責任だという。そつだらうか？
琉球弧に軍事要塞化を強引に進めているのは「私」だらうか。
考えたとき、私は1956年琉球列島米国民政府発行、ジョージ・H・カー著「琉球の歴史」序文を思い出す。



陸上自衛隊宮古島駐屯地を見るツアー参加者 2023年11月19日

寄 与那国・石垣・宮古・沖縄島をめぐり考える。 とうなち 隆子

軍事的な前線基地として、中略、植民地としてのみ、重要性があった。日本の政府はあらゆる方法をもって琉球を利用するが、琉球の人々のため、義理をもつておまかに、

「どうなち 隆子」
沖縄の基地を考える会・札幌。1950年沖
縄浦添村生まれ、1969年4月沖縄人で本土
留学。

ソロモン諸島の人びとも、自分の家の周りに花を植えて美観を整えていた。とはいっても、私自身、三十年前からソロモン諸島に通っていて、植えられている花に関心をもつたのは最近のことだ。

今回、同行した金城達也君が同じく花に関心を持つていたので、一緒に調査を試みることにした。村の何軒かの家で、家の周りに植えられている植物を一つ一つ確認した。動画で撮影しながら、村人たちに花の名前などを確認しながら、見て回り、それをあとから平面図に落としてみる、という作業だった。

それまで何となく認識していたのは、クロトンくらいだったが、それ以外にもなるほどこんな草木を植えてい

フィールドワークな日々

民族生物学者の中尾佐助は、世界の花文化の歴史的な中心は地中海地域と中国の二つだとした上で、それとは独立したもうひとつの中にオーストロネシア（東南アジア・オセアニア）があるとした。そのオーストロネシア花文化の中心的な種として、クロトン、コリウス、センネンボクを挙げている（中尾「オーストロネシアの花卉文化史」）。まさにソロモン諸島もその中にあることがわかる。ソロモン諸島に人類がやって来たのが数千年前。そのときには花も一緒に持ってきたのか、あるいはあとから移入されたのか、よくわからないが、ともかく、ソロモン諸島は東南アジアとも通じる花文化を持っていて、それを今日も維持・発展させ

おもしろいのは、今回見て回った庭に、たいへん印象的だったのは、庭によく植えられている「リウス」が、家から遠くにある焼畑にも植えられているということだ。リウスは、シソ科の植物だが、とくに食べるのではなく、なぜ畑に植えるのか。村人は「畑を美しくするため。それにほのかな匂いもよいから」と言つ。畑を美しくする、その思想やよし。

宮内 泰介（みやうちたいすけ）
1961年生まれ。さっぽろ自由学校「遊」共同代表。北海道大学教員（環境社会学）。ソロモン諸島、北海道、宮城などで、環境、生活の調査中。

前号に書いた六花亭でのコンサート後の私のスケジュールが、10月は9日は宮の沢での友人のnincup（ニンチュブ）のコンサートを見に行き、12日は遊でのノンノさん詩の講座を見に行き、15日は近美でのシーチャンこと宇梶静江の講演を聞きに。21日は友人の環ちゃんの舞台の受付他お手伝い。22日は、アメリカに帰つてしまふマイケルをウポポイに案内して、24日は北海道博物館でアイヌの歌の勉強会。25日FMアップル、31日北大での丹菊先生のアイヌの歌、踊りに関する授業。

11月は、4日、ウポポイにウタリが集合しているから会いに行つて、7日がジロタ先生と東大の先生による講演を聞きに。7日8日は二十四軒での友達の早坂賀道・ユカの展示会を見に。11日は旭川からの友人と呑んで、16日17日は阿寒でのパフォーマーの為のワーキング。

で世界で初めてアイヌ語で「イマジン」を歌うとの道新の取材、22日FMアップル、23日映画「カムイのうた」舞台あいさつ付き上映会、25日モユクサツ・ポロでのアイヌの展示の中でのトンコリワークショップを見に行ってから、円山に白老のアイヌの展示を見に行つて、夜は容子ちゃんとお子たちと晩ごはんを食べて、モユクの上のAOAOでサカナやクラゲやペンギンを見てテンション上がつて、30日新さっぽろのB-i-v-iを見て、夜はゆうごりんこと小野有五とタック・ハーシーさんとジョン・レノン追悼コンサートの打合せ。12月は1日がチカラホ北三条広場での『二風谷イタとアツトウシ伝統的工芸品認定十周年記念』の展示に二風谷のウタリが来るので会いに行つて、2日はアイヌ語弁論大会“イタカンロー”を見に、かでるへ。打ち上げでウタリで呑んで、5日は容子ちゃんのバースデイライブnincup・in・LOGを見に行き、6日はコンカリーニョでの演劇『オトン死ス!』を見て(主宰のなやーんが友人なので)、8日はジョン・レノン追悼コンサート、

この後、15日は東京アイヌ交流センターでお話しますが、タカシャインが聞きたに来るという。20日は札幌大学で授業二コマお話しで、21日はプロボというライブハウスで“OKI-＆村本大輔ツーマンライブ”的受付。27日は今年最後のFMアップルに“ウポポイ”で100回行った“カムイ＝小川神威も一緒に出演で今年が終わる。

来年1月23日は九州大学に授業しに行くし、2月6日は栗山中学校で授業。6月15日は文化人類学会in北大で北大に残るアイヌ文化のガイドをやることまで決定しています。

ともかく忙しい日々を過ごしていますが楽しいヨ☆

タント
アナクネ
pirka
ピリカ

原田 公久枝
第2回

第8回

クショップ講師タカシャインこと宇梶剛士& 橘ゆかりちゃん。19日20日は山形のキリスト

9日はジョン追悼の時にしか集まらない木の芽の三人でランチしながら、昨日のコンサートのニュースをスマホで見て、11日は大通り高校での授業でのお話を2コマこなして今がここまで。

原田 公久枝（はらだ きくえ）
札幌在住。18才年上の旦那有り。子どもなし。
集金と配達のパートをしながら、アイヌの活動
(歌・踊り・講演・執筆・お笑い等)をしている
56歳になりました。

17

「分からぬ事をわかつてほしかつた」とは、講座「琉球・沖縄の植民地化」の二回目「ウチナーで日本語で話してることは当たり前?」の冒頭で講師・知念ウシミさんが言われたこと。それは、初回に上映された「七世紀・琉球の女性歌人を主人公にした『古屋チルー物語』(一九六三年・金城哲夫監督)」を観ての「言葉の意味が分からなかつた」という率直な感想に対する言葉だ。

これを聞いていて、越田清和さんが編んだ「アイヌモシリと平和の越田さんによる『まえがき』にある「何の疑いもなく自分の住む土地を「北海道」とよんできた自分」、それを『アイヌモシリ』と呼ぶことは「アイヌ語にふれ・アイヌ民族との島の歴史を考えること」になるを思い出し、そして今更ながら「北海道」で何の疑いもなく「日本語」で暮らしていることに気付く(越田さん亡くなつて十年だ)。

知念さんは、日本同化政策・皇民化政策を「北海道(アイヌモシリ)には日本人を送り込む。琉球では琉球人を日本人に作り変える」と言い、そして今、「マヨネーズ状の海底だらうと杭を打ち込むことは結構」「獲りすぎた鮭を保護します。誰であれ獲る権利などはありません」と「脱植民地化」には程遠い。

そして地球儀だったら、日本列島を眺めてからヒヨイと東に回すと、ウクライナ・中東・アフリカが一気に目に入る。そこは「脱」どころか圧倒的な暴力そのものによる「植民地化」の真っ最中。今進んでいるのは「植民地化」が始まつた五百年前、司祭ラス・カサスが報告した状況と同じではないか。違うのは、カサスの書簡が届くまでに要したであろう時間を僕らは殆どゼロにして(様々なヴァイアスがかかっているにしろ)見聞きこしているという事。人が、そして言葉が入り混じり、「チャコチャと暮らすことを力ずくで阻むのは…。で、年を越えます。(黒田秀之)

編集便り



さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ



オンライン開催講座 (2024年1~3月開講分)

講座のお申込は、

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/9fff511f795829>
より申込フォームにご記入のうえ、送信ください。



ベーシックインカムを再考する 一生活保障と脱成長との関係から

- ④ 2/2 (金) 19:00~ ベーシックインカムの導入と生活保障と労働問題 ★中山鹿次ぐ
- ⑤ 3/1 (金) 19:00~ コミュニズムのコモンズとしてのベーシックインカム ★樋口浩義

なぜイギリス・EUで学ぶのか — 1年以上滞在してみえてきたことは?

- ④ 2/3 (土) 19:00~ 日本の気候変動対策が遅れていると同僚に言われて悔しい ★杉岡李乃
- ⑤ 3/2 (土) 19:00~ イギリスで日本の食文化を広めるために日々奮闘しています ★常井美幸

Let's Talk! 世界と出会う英語 ★アンドレス・パトリシアン

毎月第二・第四木曜 19:00~

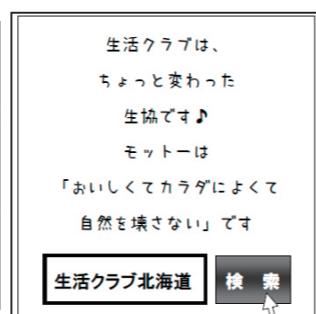
タシハンポン / もういちど ハングル ★コ・ソンギョン

毎月第二・第四木曜 19:00~

VR アートの大きな可能性

3/8 (金) 18:45~ ★VRアートを楽しむ会

*当企画のお申込はこちらから↓



会場&オンライン併用講座 (2024年1~3月開講分)

(会場記載のないものは愛生館ビル5F 501会議室にて)



中国語で読み解く東アジア 一連鎖視点を用いて ★講師 朴仁哲

② 1/9 (火) 18:45~

カール・マルクス著『資本論』を読む ★チューター 宮田和保

③ 1/10 (水) 18:45~ ④ 2/7 (水) 18:45~ ⑤ 3/6 (水) 18:45~

マイナンバー制度を考える

④ 1/11 (木) 18:45~ マイナンバーカードをめぐる問題 ★齋藤耕

⑤ 2/8 (木) 18:45~ マイナンバー制度について私たちの疑問 ★雨宮恭子&横田恒一

言葉から考える琉球・沖縄の植民地化

③ 1/12 (金) 18:45~ 同化教育から見える人類館問題 ★金城馨

④ 2/9 (金) 18:45~ 無意識の植民地主義1 ★野村浩也

⑤ 3/15 (金) 18:45~ 無意識の植民地主義2 ★野村浩也

LGBT理解増進法が成立した今、知りたいこと

④ 1/12 (金) 18:45~ 差別と人権の主戦場—アメリカから知る LGBTQ+ 問題の「今」 ★北丸雄二

⑤ 2/16 (金) 18:45~ LGBTQ+への連帯と支援—共に生きる社会をめざして ★三浦直登

先住民族の森川海に関する権利 3 一川とサケとアイヌ民族

④ 1/15 (月) 18:45~ ダム、河川改修による河川環境の変化 ★稗田一俊

⑤ 2/19 (月) 18:45~ 藻別川流域における開発の歴史とアイヌの権利 ★平田剛士&小泉雅弘

⑥ 3/18 (月) 18:45~ 沙流川流域におけるアイヌの自然利用とダム開発の影響 ★貝澤美和子&貝澤耕一

半導体産業戦略の是非を問う ★講師 藤原寿和

① 1/16 (火) 18:45~ 地政学からみた半導体産業

② 2/20 (火) 18:45~ 環境・資源問題からみた半導体産業

③ 3/19 (火) 18:45~ ハイテク災害問題からみた半導体産業

内科・神経内科

札幌中央
ファミリークリニック

外来一般診療

月火木金9:00~11:30

札幌市中央区南1条西11丁目
ワズ南一条ビル6F
TEL. 272-3455

20世紀を切り開いたアイヌ列伝 part4

④ 1/17 (水) 18:45~ 福祉活動から民族活動へ 野村義一 ★竹内涉

⑤ 2/14 (水) 18:45~ 「列伝」全20回を復習したい! ★長岡伸一

父・萱野茂 ★萱野志郎

このままでいいの? 再生可能エネルギーの進め方 part13

④ 1/18 (木) 18:45~ 海を破壊する深海採掘 ★田中滋

⑤ 2/15 (木) 18:45~ 問題だらけの輸入木質バイオマス発電 ★飯沼佐代子

⑥ 3/21 (木) 18:45~ ネイチャーポジティブ達成を阻害する再生可能エネルギー導入 ★若松伸彦

人と動物との共存・共生をめざして part3

④ 1/23 (火) 18:45~ 医薬品開発と動物実験 ★海野隆

⑤ 2/27 (火) 18:45~ 工業型畜産と食料自給率—乳牛のアニマルウェルフェアを考える ★岡井健

⑥ 3/26 (火) 18:45~ 「老牛ホーム」を創る取り組み ★朝倉真輝子

安保3文書を読み解く ★講師 北村公一

③ 1/24 (水) 18:45~ 憲法と日本の安全保障の歴史的推移と問題点

④ 2/28 (水) 18:45~ 23年防衛白書にみる安全保障の扱い方と問題点

⑤ 3/27 (水) 18:45~ 核抑止論に対する批判的安全保障論について

出版文化の可能性 一北海道から全国に向けて発信しよう part2

④ 1/26 (金) 18:45~ 出版の可能性を拓げる最新技術 ★竹島正紀

⑤ 3/22 (金) 18:45~ 道内出版の今とこれから ★本講座のPart1とPart2の講師ら

日本の植民地主義を考える 一ひとつつなぐ未来のために part2

④ 2/5 (月) 18:45~ 朝鮮戦争 ★金敬默

⑤ 3/4 (月) 18:45~ 民族学級にかようこと、言葉と歴史を学ぶことの意味 ★チョキムほか

越境する人と文化を通して読み解く東アジア VI ★講師 朴仁哲

③ 2/13 (火) 18:45~ 韓国全羅北道を事例として



さっぽろ自由学校「遊」 からのお知らせ

会場開催講座（2024年1～3月開講分）

(会場記載のないものは愛生館ビル5F 501会議室にて)



ワークショップで共に学ぶ 一世界と「北海道」の開発・多様性・未来

於：愛生館サロン（愛生館ビル6F 南側奥）

④ 1/13（土）14:00～ シコツの500年 ★渡邊圭、八木亜紀子

⑤ 2/10（土）14:00～ わたし・たちにとっての「豊かな社会」とは？ ★川合蘭、八木亜紀子

老いと向き合う part10

④ 1/5（金）14:00～ 交流会

⑤ 2/2（金）14:00～ 介護保険制度の改悪を読み解く ★巻渕悠

⑥ 3/1（金）14:00～ 地域とつながる—コミュニティ・カフェ「ふうしゃ」の見学 ★大西由記子
* 13:50「ふうしゃ」集合（西区西野南21丁目2-15第一ワコビル1階）

「遊」版うたごえ喫茶 2023

於：愛生館サロン（愛生館ビル6F 南側奥）

④ 1/19（金）14:00～ ⑤ 2/16（金）14:00～ ⑥ 3/15（金）14:00～

読書室 よりみちまわりみち

④ 1/20（土）14:00～ ⑤ 2/17（土）14:00～ ⑥ 3/16（土）14:00～

アイヌアートデザイン教室 ★講師 貝澤珠美

毎月第二・第四水曜 13:00～

会費、ご寄付をくださった方々 (敬称略、順不同)

期間：2023年10月27日～12月22日

*印の方は、新規の方です。

■正会員会費を受領しました

林炳澤、出口真也、大野かほり、小町谷健彦*、
小玉悦子*、松田浩樹*、本庄十喜（以上、23年度分）、竹内涉（24年度分）

■準会員会費を受領しました

平野昌幸*、安味伸一*、久野真理子*

■寄付

◎一般寄付 小町谷健彦、前田多嘉子、千田素子、
伊藤裕子、糟谷奈保子、匿名1名

◎ひと基金 伊藤郷子

★ありがとうございました★

自然食ホロ



札幌市東区中沿西
5条2丁目3-16
TEL: 887-6224

いつも喜んで、
感謝して。

<http://holo.sunnyday.jp/>

憲法を私たちの生活に！ 厚別9条の会

会員は厚別を中心に、沖縄のアメリカ兵まで約100名

共同代表 渡辺 信一

TEL: 090-6218-8284 FAX: 011-897-8390
E-mail: mbwatanabe@yahoo.jp

いつだって No Nuke !



北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

Simple Life, High Thinking

小4から高3まで
スコーレ ユウ

〒067-0866 札幌市東区伏古6条4丁目4-21
TEL: 765-0228

ゆうひろば

発行：NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル5F 501

・郵便振替口座： 02780-5-47036 (名義：自由学校「遊」)

- TEL: 011-252-6752
- FAX: 011-252-6751
- syu@sapporoyu.org
- <https://sapporoyu.org>



web サイト



F B ページ

